

第27回 全日本大学男女選手権

男子の部

日ソ協記録委員 松本 正文

第27回全日本大学男子選手権大会は32チームが参加し、香川県観音寺市、大野原町、豊浜町において開催された。今年の東四国国体開催を控えた香川県では今大会を国体リハーサル大会と銘打ち、行政機関と協会が一体となって運営に当たった。

さて、過去26回のうち20回の優勝に輝く日本体育大学が、昨年に続き21回目の栄冠を克ち得るか、また、これを阻むのはどこか。さらには新記録の達成等、数々の興味を抱かせながら行わ

れた大会であったが、中京大学の14年ぶり3度目の優勝によって幕を閉じた。冒頭から苦言を呈して心苦しいが、好ゲームが続出した反面、試合時間の長いゲームが随分と目についた。90分以内のゲームが僅かしかなく、緊迫感に乏しい結果となったのは残念である。投球間隔が長い、いたずらに打者席をはずす、攻守交代の時間が長い等が主な原因であるが、今後はこれらの点を改めて迫力に満ちたゲームを展開するよう切望する。

中京大14年振りの優勝飾る

日体大2回戦で早稲田に敗れる

日体大は1回戦では3安打ながら宮平永義の力投もあって延長戦の末に辛勝したが、2回戦で早稲田大に完封負けを喫し連覇の夢は消えた。日体大は

初回の二死満塁を逃し、逆にその裏2安打と暴投などで1点を許したのが致命傷となった。その後は早稲田につけ入る隙を与えなかっただけに、悔やま



優勝した中京大チーム

れる失点であった。前年度準優勝の国士館大は、1回戦2安打、2回戦1安打で相手を完封して貫祿を示したが、準々決勝戦で中京大にサヨナラ負けを喫した。国士館は、1点リードで迎えた最終回、兼久直也がそれまでの好投がうそだったかのようにな突如制球を乱して2四球を呈し、味方のエラーも絡んで満塁のピンチに立たされた。そして打者・仲田浩之への平凡な外角球の初球を右中間に強打されて痛恨の逆転負けとなった。2回戦で日体大を屠った早稲田は今

●平成4年8月7日(金)〜10日(月)
 ●男子 香川県観音寺市/三豊総合運動公園広場他
 三豊郡大野原町/萩の丘公園広場
 豊浜町/町民野球場
 ●女子 香川県坂出市/林田運動公園
 綾歌郡国分寺町/町民野球場他

大会、何か幸運の女神が乗り移ったような感じであった。初日の1回戦で第一経済大の先頭打者に本塁打を喫し苦戦が予想されたが、突然の豪雨により試合が中止されたため幻のホームランとなり、仕切り直しの一戦では先制攻撃が奏功して楽勝した。

日体大を破って迎えた準々決勝戦では、初回の得点で中盤以後はエースを温存する余裕を見せ、打線の爆発もあって盛岡大を一蹴、準決勝へ進出した。その準決勝での相手の愛知大は、1回戦で東京大に大勝してから波に乗り、ここまで勝ち上がったチームであったが、早稲田の打棒に抗し切れなかった。

中京は1回戦でエース竹下明宏が不慮の事故に遭う不運にもめげず、鉄壁の守備陣と打線の奮起により準々決勝戦に進出、苦戦の末ゲームをものにした。

準決勝戦の相手、九州東海大は、投打がかみ合ってそれまで比較的楽に勝ち進んできたが、中京は5回に集中安

